令和7年度　環境保全報告書

株式会社　ロック・フィールド　神戸ファクトリー

目　　次

①当該年度の重点取り組み目標・計画の実施状況

●省エネルギーの推進

●廃棄物の削減

●資源の使用の抑制

②各種対策に係る計画

1）公害防止対策に関わる報告

目標達成状況と達成のために講じた措置

調査結果

●ばい煙測定値

●排水

2）地球温暖化対策

1　電気・燃料等の使用予定量および使用実績

2　二酸化炭素排出削減目標に対する達成状況

3）公害防止対策地球温暖化対策以外の環境保全活動にかかわる目標、計画と実施状況

令和7年度　環境保全報告書

株式会社　ロック・フィールド　神戸ファクトリー

①当該年度の重点取り組み目標・計画の実施状況

●省エネルギーの推進

≪目標≫　電気使用量を、年間7,312.0千kwh以下に抑制する

	単位	2025年度 5～4月
電気使用目標	千kwh	7,312.0
電気使用実績	千kwh	7,044.0
目標対比	(%)	96.3%

ユーティリティーを中心に工場稼働と連動した空調システムを構築。外気温度の上昇もあったが、夏季を中心に電力消費を抑制。
設備更新時期と合わせて省エネ設備への切り替えが進む。

●廃棄物の削減

≪目標≫　廃棄物（動植物性残渣）　の廃棄発生を年間333.9t　以下に抑制する
　　廃棄物（廃プラスティック）の廃棄発生を年間163.7t　以下に抑制する

	単位	2025年度 5～4月
廃棄物（残渣）総量目標	t	333.9
廃棄物（残渣）総量実績	t	303.1
目標対比	(%)	90.8%

	単位	2025年度 5～4月
廃棄物（廃プラ）総量目標	t	163.7
廃棄物（廃プラ）総量実績	t	153.3
目標対比	(%)	93.6%

部門横断した、活動成果の積み重ねが功を奏し、動植物性残渣・廃プラの低減となる。
数年にわたる包材の薄肉化、適正な規格の包材使用の変更とバイオプラスチック使用等のハード面の切り替えが一巡していますが、包材の使用、廃棄物抑制に向けた取組み進化が必要。

●資源の使用の抑制

≪目標≫　水の使用を年間105.1　千t　以下に抑制する

	単位	2025年度 5～4月
水　使用量目標	千t	105.1
水　使用量実績	千t	103.4
目標対比	(%)	98.4%

機械設備の冷却水の再利用を行うなど、積極的なハード面の見直しが功を奏した。
生産現場では「機械の稼働コントロール」を行い、機械待機時間での節水を積み上げた。

②各種対策に係る計画

1）公害防止対策に関わる報告

目標達成状況と達成のために講じた措置

	目標達成状況	目標達成の為の措置
大気汚染防止対策 大気汚染防止法の排出基準に関する条例等を遵守するばい煙発生施設からの排出規制を遵守する	測定の結果すべてのばい煙発生施設（ボイラー）の排出が規制値内に収まった （規制値および測定結果は下記参照）	ボイラーを0．65MPaで運転 ばい煙発生施設の巡回 月1回のメーカー点検
水質汚濁防止対策 法令の遵守	排水の自主基準値を設定。 年間をとおして順調に推移	除外施設を適正に維持管理し、 定期的に水質測定を実施
非PRTR系物質で構成する薬剤の選択	一部薬剤を残し、非PRTR系物質で構成される薬剤を選択 単位：kg　2024年　435.4 2025年　539.8 前年対比　124.0%	令和6年4月より化学物質管理の事業者責務もあり、評価・運用面が改善された。 薬剤廃盤による薬剤変更と使用量増加による微増となった。
廃棄物対策 法令の規制遵守と適正処理 発生量の抑制と再利用の	法令および適正処理に関して遵守について 単位：kg　2024年　651,000 2025年　629,196 前年対比　96.7%	法令の規制を定期的に確認し遵守につとめる

※排水にかかわる自主規制値

項目	自主規制値	
PH	5～8	神戸市下水道条例による数値を上回る水質
BOD	180以下	水質使用料徴収の非該当値内
SS	180以下	水質使用料徴収の非該当値内
ノルマルヘキサン	20以下	水質使用料徴収の非該当値内

調査結果

●ばい煙測定値

測定年月日　R7年7月測定

7月測定値		ダスト濃度	窒素酸化物濃度
規制値（猶予中）		0.1g/㎥以下	150volppm以下
測定値	ボイラーNO1	0.0070g/㎥以下	20ppm
	ボイラーNO2	0.0064g/㎥以下	21ppm
	ボイラーNO3	0.0080g/㎥以下	18ppm

ボイラー設置届（西宮労働基準監督署）検定番号　No.小　Z　201106

東灘消防署への設置届：蒸気ボイラーSQ-2000AS×3台（令和4.10．28）

ばい煙発生装置設置届出（神戸市環境局）：第4A2016号（令和4.10.7）

●排水

		管理基準値	最大測定値	平均	測定回数	超過した回数	判定
法令排水基準設定項目（生活環境項目）	PH	5～8	7.6	7.3	50	0	○
	BOD	180以下	110	45.8	50	0	○
	SS	180以下	180	34.0	50	0	○
	ノルマルヘキサン	20以下	2	0.04	50	0	○

2）地球温暖化対策

1電気・燃料等の使用予定量および使用実績

区分	燃料・焼却物等の種類	R6年度使用量	R7年度目標	R7年度使用量	単位
燃料	都市ガス	780,200	779,100	764,700	㎥
	その他（廃棄物等）				Kg
電気事業者から供給された電気		7,264,300	7,312,100	7,055,600	kwh
熱供給事業者から供給された熱					
原油換算		2,774		2,703	KL
生産量		6,379		5,993	t
エネルギー使用量原単位		0.435		0.451	

2二酸化炭素排出削減目標に対する達成状況　　単位：t-CO2

温室効果ガス	R7年度排出目標		※排出実績
二酸化炭素	電気	2,690	2,050
	ガス	2,126	2,640
	計	4,816	4,690

3）公害防止対策地球温暖化対策以外の環境保全活動にかかわる目標、計画と実施状況

分野	項目	目標	実施状況
事業所等での廃棄物の適正処理	コピー用紙の使用削減	小集団活動による見直し	小集団活動により裏紙使用、両面使用を推進
	作業のペーパーレス化	環境配慮した、FSC認証紙へ変更	スキャナー活用 裏紙活用の推進 データ配信によるペーパーレス化
	適正処理	新規取引先を含めた処理場視察	視察計画に沿って中間処分場の視察を実施（4か所）
	分　別	教育による徹底	継続して徹底
再生製品の使用		再生製品の使用率向上	再生製品使用
従業員教育	教育の年間計画策定	計画された教育の実施	実施
	環境に関する外部教育・セミナー参加	1人/年	1人/年
	小集団活動による主体的な取組の推進	重点目標の達成	5項目中4項目で達成
環境管理システムの充実	ISO14001認証継続	活動の改善	改善活動を継続
	内部監査実施	年2回実施	2回